

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 27 年 5 月 28 日現在

機関番号：35402

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2013～2014

課題番号：25750319

研究課題名(和文)エビデンスの視点からみたスポーツ・イベントによる地域活性化の評価研究

研究課題名(英文)An Evaluation Study of Community Development through Sports Event

研究代表者

岡安 功 (Okayasu, Isao)

広島経済大学・経済学部・准教授

研究者番号：90551664

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 800,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、マラソン大会を通じての地域活性化の現状と課題を総合的に評価し、問題点を明らかにする事を目的とした。全国の100(回収率は40%)のマラソン大会組織委員会への質問紙調査と4つの組織委員会へのインタビュー調査を実施した。結果は、大会の開催は平均で18回であった。また平均で約9,000人の参加者であった。次に、インタビュー調査の結果、各大会において、マラソン大会を通じたスポーツ振興と観光振興が進められていた。また、今後に向けて、持続可能なマラソン大会の運営を進めていた。そして、マラソン大会によるスポーツ振興・観光振興という視点で地域活性化がさらに進む可能性が示された。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study is to investigate community development through marathon events regarding the current situation and problems. This research applied qualitative and quantitative methods. The results of questionnaire survey regarding with 100 marathon organization (response rate: 40%) reported that the average number of time were 18 and of participants were 9,000. A survey was posed to 100 marathon organizations (response rate 40%) across the country. As a result, since the year 2000, on average, 18 marathons were held. 9000 participated. The results of interview with staff members from four of these organizations revealed that sports and tourism were being promoted via marathon events. Each organization is proceeding sustainable management of marathon event. In addition, this research indicated sports events such as marathons have the possibility to enhance further community development with regard to sports and tourism.

研究分野：スポーツ社会学

キーワード：スポーツ・イベント 地域活性化 スポーツ振興 観光振興

## 1. 研究開始当初の背景

スポーツ・イベントの開催は、様々な形で効果がある事が報告され、注目が寄せられている。野川(2007)は、スポーツ分野だけでなく地域振興や環境および健康効果等、様々な形で国際的に注目が寄せられている。また山口(2007)は、スポーツ振興についての効果について、具体的にコミュニティ再生などの社会的効果、観光産業へのインパクトなどの経済的効果、QOLの向上などの個人的効果を報告している。さらに原田(2012)においては、スポーツ・イベントが都市や地域の活性化において触媒の役割を果たす力を秘めていると指摘するなど、マラソン大会等の開催は、開催される地元自治体において、様々な効果が期待されている。近年、こうした中で、マラソン大会が各地で開催され、大変注目が寄せられている。

我が国でのマラソン大会の開催は、約100年前からであるといわれる。北村(2012)によれば、新聞社の販売促進という事もあり、1900年に「不忍池池畔一周長距離走」がスポーツ・イベントとして開催された。また間宮(1995)によれば、「マラソン」という用語は、1908年の「阪神マラソン」において初めて使用されたとの事である。

マラソン大会の開催は、スポーツ振興のひとつとして、全国各地で長く開催されている。近年のマラソン(ジョギング)ブームによって、全国各地のマラソン大会では、これまでの想像を超える多くの参加申込者を記録し、あらたに参加者を制限する・抽選にする大会も出てきた。近年のマラソン大会の隆盛のきっかけのひとつは、2007年からスタートした東京マラソンである。東京という大都市を駆け抜ける気持ち良さがひとつの要因となり、多くのランナーが大会への参加エントリーを行っている。

マラソン大会の開催は、東京マラソンをみれば明確であるように、マラソンを通じたスポーツ振興や観光振興の視点が挙げられる。こうした事は、様々な自治体などで開催されるマラソン大会も同様である。しかしながら、大会を主催する自治体がどのような目的によってマラソン大会を開催し、大会の現状をどのように捉え、そして地域活性化(スポーツ振興と観光振興)の視点でどのように大会を評価しているのかという点において、まだ不明確な点が多い。

こうした中で、政策において、その政策評価の実証ともいえる「エビデンス」が求められる中では(山口, 2009; 龍・佐々木, 2010; 武藤, 2012; 内海, 2012)、自治体のスポーツ政策の一つとして位置づけられるマラソン大会が、どのような地域活性化の効果をもたらしているのかを明確にして、各地の大会における現状と課題を明確にする事は、非常に重要である。

これまで、スポーツ・イベントの評価に関する研究は行われてきたものの、政策と関連

付けた総合的な評価には至っていない。Plan-Do-Check-Actionという形でPDCAのサークルを相互的に機能させ、循環させることこそが、スポーツ政策としてのマラソン大会の開催目的や意義を達成させることになる。つまり、「C(Check)」に固執することなく、その循環を視野に検証する必要がある。

## 2. 研究の目的

本研究では、マラソン大会を通じての地域活性化の現状と課題を総合的に評価し、問題点を明らかにする。また開催する自治体にとって地域活性化の視点から良いマラソン大会の在り方を提言する。

## 3. 研究の方法

本研究は、平成25年度、平成26年度の2年間で実行した。

平成25年度は、地域活性化の現状の把握を目的としての指標を作成して、株式会社アールビーズが行っているランニング100選に選ばれた大会を開催する自治体を調査対象として質問紙調査を実施した。本研究は、競技志向の参加者が考えるマラソン大会ではなく、より多くの人が気軽に楽しむことを目的のひとつとしている生涯スポーツとしてのマラソン大会の開催による自治体の地域活性化を考えた。そのため、民間の企業が行う一般ランナーの投票できるランニング100選が行われる自治体を調査対象とした。質問項目は、山口(1996)や原田(2011)を主に参考に使用した。

平成26年度は、マラソン大会による地域活性化について、エビデンス(根拠基盤)の視点からイベントの効果について、4つの自治体について、半構造化のインタビュー調査を実施した。特に地域活性化の中で2つの柱としては、スポーツ振興と観光振興に着目しながら質問項目を設定した。

## 4. 研究成果

### (1) 質問紙調査の結果

#### ① マラソン大会の現状

質問紙調査の結果、41の大会組織委員会から回答を得る事が出来た。回収率は、41%であった。

これまでの大会の開催回数については、会と組織の平均は約18回であった。最大の開催回数は51回であり、最小の開催回数は2回であった。

次に、昨年度の大会への参加者数についてである。平均人数は、約9,000人であった。最大参加人数は27,353人であり、最小参加人数は448人であった。

昨年度の地元地域からの参加者数については、平均人数は約2,260人であった。最大の地元地域からの参加者数は9,222人であり、最小の地元参加者は5人であった。しかしながら、この最少の地元参加者数の大会は、全体でも数百名の参加者という大会自体が小

規模の大会であった。

コースの陸連公認については、昨年度のコース公認については、未公認が 23 大会、次に公認済みが 17 大会であった。また申請中は 1 大会であった。

他大会招待は、昨年度の他大会招待を実施していない大会が 26 大会と一番多く、次に国内か海外の大会招待がある大会が 7 大会であった。さらには、国内・海外両方の招待がある大会は 1 大会であった。

昨年度の地方自治体関与については、運営費に対して補助金が出る大会が 31 大会で一番多かった。次に、地方公共団体から委託を受けているのが 3 大会、地方公共団体から資金面の援助を受けていないのが 2 大会であった。

昨年度の大会の収入に関して、自由記述で調査を行った。結果は、参加者収入の平均が約 2,000 万円、またスポンサー協賛金の平均が約 300 万円であった。

## ②スポーツ施策に関して

この項目に関して、40 の大会主催組織から回答を得る事が出来た。表 1 は、スポーツ施策としてマラソン大会の開催に関して、原田 (2001) を援用して、どれほど重要と捉えているのかを聞いたものである。5 段階のリッカート尺度を採用して「1:全く重要ではない～5:大変重要である」と設定した。結果としては、「住民の健康づくり」、「良好なコミュニティ形成」、「教育の一環」、「観光・関連産業振興」、「シティセールス」の 5 項目は、約半数、または半数以上の回答を寄せた組織において、やや重要以上と回答していた。

表 1. スポーツ施策としてのマラソン大会の重要性

	住民の健康づくり		良好なコミュニティの形成		生活の質の向上		教育の一環		観光・関連産業振興		シティセールス	
	n	(%)	n	(%)	n	(%)	n	(%)	n	(%)	n	(%)
全く重要でない	1	(2)	0	(0)	1	(2)	0	(0)	0	(0)	0	(0)
それほど重要でない	1	(2)	2	(5)	2	(5)	1	(2)	0	(0)	0	(0)
どちらともいえない	11	(27)	9	(22)	27	(66)	14	(34)	5	(12)	10	(24)
やや重要である	22	(54)	19	(46)	7	(17)	19	(46)	25	(61)	19	(46)
大変重要である	5	(12)	10	(24)	3	(7)	6	(15)	10	(24)	11	(27)

次に表 2 は、スポーツ施策としてのマラソン大会の開催によって、原田 (2001) を援用した項目がどれほど達成されたと考えるかを聞いた。5 段階のリッカート尺度を採用して「1:全く達成させていない～5:大いに達成されている」と設定した。40 の回答を得た組織の回答をまとめると、「良好なコミュニティの形成」、「観光・関連産業振興」、「教育の一環」、そして「シティセールス」の 4 つの項目に関しては、達成していると回答した傾向が高かった。

表 2. スポーツ施策としてのマラソン大会による達成

	住民の健康づくり		良好なコミュニティの形成		生活の質の向上		教育の一環		観光・関連産業振興		シティセールス	
	n	(%)	n	(%)	n	(%)	n	(%)	n	(%)	n	(%)
全く達成されていない	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)
それほど達成されていない	2	(5)	2	(5)	4	(10)	2	(5)	0	(0)	0	(0)
どちらともいえない	5	(13)	4	(10)	18	(44)	6	(15)	1	(2)	6	(15)
やや達成されている	9	(9)	16	(39)	11	(27)	24	(59)	14	(34)	13	(32)
大いに達成されている	24	(24)	18	(44)	7	(17)	8	(19)	25	(61)	21	(51)

## ③マラソン大会の評価に関する自由回答

マラソン大会の開催による地域の変化、地域のスポーツ振興の視点でのマラソン大会の開催の貢献、さらに地域の観光振興の視点でのマラソン大会の貢献について調査を実施した。そしてそれらの回答に関して、KJ 法を用いてまとめた。

まずは、マラソン大会の開催による地域にどのような変化を期待しているかという点である。結果として、3 つのキーワードにまとめた。1 つ目にあげられることは、健康増進である。これは、大会自体が健康増進のための一助になっていると捉えられているからである。また活性化は、大会が地域全体を地域全体で盛り上げる機運が作りだされて活性化につながるなどが挙げられた。また、まちづくりは、大会を地域全体で盛り上がる事でのまちづくりへと変化をしていった事、最後の交流は、大会をひとつの契機としたコミュニティの形成などが挙げられた。



図 1. マラソン大会の開催による地域の変化

次に、マラソン大会開催による観光振興への貢献についてである。結果を、2つのキーワードにまとめた。まず、地域PRが挙げられた。マラソン大会の開催を通じて知名度を上げる意味などにおいて貢献していると捉えているようであった。また、再訪問者の増加である。これは、大会へ参加する事で、その地域の魅力を感じ、リピーターとしての大会への複数回の参加という事が挙げられた。



図 2. スポーツ振興の視点でのマラソン大会の貢献

最後に、マラソン大会開催による地域の観光復興の貢献について、3つのキーワードにまとめた。まずは、ささえるスポーツの視点で、ランナーとして参加するだけでなく、スポーツボランティアとしての関わりなど多様な関わり方が挙げられた。また健康づくりの一助になっているという事があった。さらに、地元でのマラソン大会の開催が、スポーツに親しむきっかけとの事も挙げられた。



図 3. 観光振興の視点でのマラソン大会の貢献

## (2) インタビュー調査

### ① 調査概要

調査は、4つのマラソン大会組織委員会の事務局スタッフに対して実施した。調査内容は、研究目的に沿って、4つ設定した。まずは、スポーツ振興としてのイベント（マラソン大会）の意義・効果である。地域のスポーツ振興におけるマラソン大会について聞いた。次に、観光振興としてのイベント（マラソン大会）の意義・効果である。3つ目には、スポーツ振興、観光振興における課題・問題点（マラソン大会について）である。最後に、今後のスポーツ振興や観光振興におけるイベント（マラソン大会）の展望・方向性である。

### ② 結果

調査結果を、それぞれの質問項目ごとにまとめた。

まず、スポーツ振興としての意義や効果である。これに関しては、地元住民のスポーツのきっかけや目標としての意義がある。この点に関しては、大会にフルマラソンだけでなく、ハーフマラソンを加えたり、ウォーキングイベントを併設させたりと、様々な人が参加しやすくすることで地域におけるスポーツ振興が行われていた。また、ささえるスポーツの視点から、応援やボランティアとして関わりなど、地域におけるスポーツ文化の醸成にも寄与していることがあった。

次に、観光振興としてのイベントの意義・効果である。これに関しては、ランナーの経済効果というキーワードがあった。前日に大会の受付があり、またレース当日は、早朝のスタートであることを考えると、地元ランナー以外は、前日の宿泊が必要となる。またゴール後に、近くの観光地などを訪問する事もあり、大会の前後における経済効果は、各大会においても期待されていた。また大会において地元のお祭りなどをPRして、再訪問の機会のきっかけづくりを行っている。年に一回のマラソン大会へのリピーターとしての再訪問もさることながら、スポーツ・イベントだけではなく地域の魅力をいかにして伝えるかという事も考えられていた。またイベントの開催時期も、他の地元の伝統的なお祭り等と同時期の開催を避け、閑散期に大会を開催する事があった。

3つ目には、スポーツ振興、観光振興における課題・問題点（マラソン大会について）である。これに関しては、2点あげる事が出来る。まず、大会を支えるボランティアについてである。地方において高齢化が進む中で、ボランティアの確保および育成という課題があった。人口減少も地方においては課題になる中で、どのようにして大会運営においても重要な役割を担うボランティアを確保、またそうした役割を担う事が出来るボランティアを育成するかは課題としてあるようだ。しかしながら、ある大会においては、高校生がボランティアとして大きな役割を担っていた。受付業務なども担当して、多世代でひとつの大会の運営に関わるという事もあった。次に、いかにして大会の質を維持するかという点である。スポーツ振興や観光振興の両面において、大会に質の向上だけでなく、維持という事が大変重要であることが挙げられた。観光振興も期待した地元以外のランナーの事を考えたことだけでなく、地元ランナーの視点からも毎年参加したいと思う大会の開催は、地域のスポーツ振興の視点からも重要である。

4つ目は、今後のスポーツ振興や観光振興におけるイベント（マラソン大会）の展望・方向性である。これに関しては、現状の大会

コースを、より魅力的なコース設定にすることを考えているところがあった。これは、観光振興の視点も踏まえて、リピーターにも楽しんでもらえる大会運営につながる。また、スポーツ振興を進めて行く中で、観光という事もついてくるという捉え方もあった。当然ながら、大会は、走る事が目的であり、観光はそれに付随するものである。またマラソン大会には、地域社会的効果が期待されている。地域のネットワークの構築や拡大等に貢献できる可能性を秘めている。その意味では、やはりランナーとしての参加もさることながら、ボランティアとしても参加してもらいながら、地域全体のひとつの「お祭り」として、大会を開催する事で、スポーツ振興と観光振興を兼ね添えた大会になる。

### (3)まとめ

本研究は、マラソン大会を通じての地域活性化の現状と課題を総合的に評価し、問題点を明らかにする事を目的とした。

質問紙調査の結果から、大会の規模などにおいて様々な大会が全国で開催されていた。しかしながら、それぞれ、地域社会への貢献という点でも、シティセールスなどにおいて開催の重要度があった。そして、そうした事がある程度は達成しているという傾向は、類似している事が明確になった。

また、スポーツ振興と観光振興の視点で、大会の開催が地域活性化に結びついている事が明らかになった。特に、地域においてスポーツ文化の醸成という事では、するスポーツという視点だけでなく、ささえるスポーツの視点も通じての地域活性化等も、地域の特性を考慮しながら各大会で明確になった。また観光振興の視点では、いかにして大会の質を向上、また維持するか、そうした視点からの大会へのリピーターの増加を考えていた。また、スポーツに関連しない形での観光客として再訪をどのように考えていくかを検討していた。そしてスポーツ・イベントを複数回開催するような事で、再訪の機会を促進させることも行われていた。

スポーツ・イベント、特に本研究ではマラソン大会に着目して、地域活性化の評価を検討したが、近年各地で大会が開催される中で、どのようにしてその評価をするかは、各地域の状況も異なり、それぞれ違いもあった。しかしながら、その中で、各マラソン大会の組織がどのような明確な目的と持って実施し、その評価をする事は重要である。大都市のみならず、中・小規模の市区町村でも様々なマラソン大会が開催される中では、地域の実情に合致したイベント運営、そして評価を行い、地域の活性化につなげるテーマを、より明確に示していく事が、持続可能な大会の開催につながると考える。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 件)

〔学会発表〕(計 件)

〔図書〕(計 件)

〔産業財産権〕

○出願状況(計 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

○取得状況(計 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕  
ホームページ等

## 6. 研究組織

### (1)研究代表者

岡安 功 (OKAYASU ISAO)

広島経済大学・経済学部・准教授

研究者番号：90551664

### (2)研究分担者

( )

研究者番号：

### (3)連携研究者

( )

研究者番号：